

頑張る

農業法人

「二生の仕事として農業に就き、米だけでなく肉牛肥育に挑んだ」と熱意を語る亀岡市西別院町犬甘野の(有)原田牧場の代表取締役、原田雅之さん(71)。230頭を肥育し、静かな環境で健やかに育てることにこだわり、共進会などで良質牛として評価されている。米、シイタケの複合経営にも取り組み、若い従業員を迎えて後継者育成にも力を入れている。

同地区は同市南西端で、標高400m前後の中山間地。水稲生産や森林管理をしていた両親のもとで、原田さんは高校卒業後、運送業をしてきたが、結婚して子どもも産まれて「生涯かけた仕事をしよう」と31歳から農業を継いだ。

「中山間地では米作りだけの経営には限界がある」と1971年から30頭規模で肉牛肥育を始め、2年後にシイタケ栽培にも取り組んだ。その後、シイタケ栽培はピーク時には6000本以上の原木で生産していたが、徐々に肥育牛にウエイトを移して牛舎も増築した。

良質牛の生産を目指して足元におがくずなどを敷き、静かにのんびりと育つ環境づくりに努めている。その結果、近畿・北陸・東海枝肉共進会では優秀賞を受賞し、府農林水産業功労者にも選ばれた。

さらに経営安定化のため、2000年に法人化した。妻の八重子さんと経営してきたが、高齢で

亀岡市
西別院町

(有)原田牧場



肉牛肥育に頑張る原田さん(左)と上田さん(亀岡市の原田牧場牛舎で)

若手従業員も継承へ

環境重視して良質牛生産

作業も重労働になってきたこともあり、昨年、府立農芸高校畜産科を卒業した京都市内在住の上田優輝人さん(20)を従業員に迎えた。

上田さんは「幼い頃から動物が好きで牛を育てたかった」と給餌から足元管理、個体チェックなどを任されて張り切る。

「畜産経営は飼料価格の上昇や出荷価格の低迷など厳しいが、原田牧場の知名度を上げるため頑張る。将来、上田さんに経営を継承してもらいたい」と期待する。

上田さんも「将来、当地に移住し、本格的に畜産をやりたい」と意気込む。

▽法人所在地 亀岡市西別院町犬甘野中山22の1。電話 0771(27)2376。